



一般
部門

株式会社 桃原農園



平和と環境を掛け合わせた、 子どもの心を育む活動を実施

株式会社桃原農園は、2015年(平成27年)の沖縄戦後70周年を機に、「第1回平和の木を育てよう」活動を開始。平和について考えるイベントの開催や自主制作した「平和の木を育てよう」リーフレットを地元小学校へ寄贈するなど、平和活動を継続的に取り組んでいます。

平和活動と環境活動を上手く連動させながら、植物を育てる“身近な幸せ”から平和を考えるとというアプローチや自治体や企業、学校、市民の人たちと一緒に平和活動を行っていることは、SDGsの視点からも、持続可能な社会づくりに貢献しています。



一般
部門

琉球フットボールクラブ株式会社



地元企業等と共に、 地域に根ざしたSDGsの取組を実践

琉球フットボールクラブ株式会社は、サッカーの活動だけではなく、地元企業や行政などと共に地域に根ざした社会貢献活動に取り組むことを活動理念としており、青少年育成、健康増進活動、地域の和、まちづくり活動等にも取り組んでいます。

FC琉球公式戦に小学生を無料招待している「FC琉球夢パスプロジェクト」活動は5年以上継続しており、また、海洋ごみ問題の啓発などの海洋保全活動、県産品流通促進・食糧支援活動などを通じてSDGsを意識した取組を推進しています。地域の関係者と連携、協力した平和で豊かな地域づくり活動は、他の企業等への社会的波及効果も期待できます。



一般
部門

新垣 ゆき



白梅学徒隊の体験を語り継ぐ活動を通して、 平和の心を発信

新垣ゆき氏は、本業に従事するかたわら、故中山キクさんの意志を引き継ぎ、沖縄戦で動員された「白梅学徒隊」の体験を語り継ぐ平和ガイド活動を20年にわたり行っています。

戦争体験者、語り部が減少していく中で、白梅学徒隊の戦争体験の継承に個人として長年にわたり携わり、学校交流として県内外の学校と平和交流を行い、修学旅行生への講話や県外の方への理解促進、次世代への継承につながる活動を継続的に取り組んでいます。

平和を発信する強い心、活動している姿は多くの若者に影響を与えており、次世代継承に大きく貢献しています。



学校関係
部門

劇団石川ひまわり キッズシアター



地域の子ども達による 平和劇を通して、事故の記憶を継承

劇団石川ひまわりキッズシアターは、1959年（昭和34年）6月30日、宮森小学校で遭った「米軍ジェット機墜落事故」への関心を広めたい思いから、2012年（平成24年）に発足。10年もの間、広く地域の子どもたちが参加する活動として主催者や生徒たちの想いで続いています。

「墜落事故を忘れない」「二度とこういうことが起こってはいけない」戦争の風化が懸念される現状において、犠牲者と同年代の児童が「過去は変えられないが、未来は私たちの力で変えることができる」というテーマのもと平和劇に取り組むことで、記憶の継承につながるとともに、平和の尊さを実感できます。



学校関係
部門

沖縄県立向陽高等学校 展示ガイドグループ



生徒がピア・ガイドとなり 一緒に考える新しい継承の取組

沖縄県立向陽高等学校展示ガイドグループの結成は、2022年10月にJICA沖縄で行われた沖縄県主催「ガマのワークショップ」に参加した有志生徒が、沖縄平和賞授賞式において創作詩を発表したことに遡ります。

2023年(令和5年)には、ひめゆり平和祈念資料館と連携し、「同世代と話そう、平和について」をテーマに、展示ガイドに取り組みました。文化祭では「ひめゆり学徒と沖縄戦」パネル展示を実施。生徒自身がピア・ガイドとなり、県外から来た同世代の生徒らと一緒に考え、話し合うピア・エデュケーションを通した手法は、今後の平和発信への貢献に期待が持てます。



学校関係
部門

沖縄県立読谷高等学校



全校生徒が参加し、 主体的に創り上げる平和特設授業を実施

沖縄県立読谷高等学校では、1987年(昭和62年)から、生徒自身が自発的に学び、平和について考え発信し、国際社会の平和に貢献できる人材を育成する授業が行われています。37回目となる平和特設授業では、伝統劇「伝えたい思い」をはじめ、他校では見られないオリジナリティーに溢れた取組を実践しています。

国際社会の平和に貢献できる人材育成が、校風としてしっかり根ざした取組となっており、全校生徒が参加し、生徒の実行委員会を中心に自主的・主体的に平和特設授業を長年継続して取り組まれていることは、他学校への波及効果も期待できます。